JAいみず野

心と心が
地域をむすぶ

いみず野

2015
4
April
Vol.176

編集／発行　いみず野農業協同組合 総務課　富山県射水市北野1555-1　TEL 0766(52)0023　FAX 0766(52)5955　平成27年4月1日

URL：http://www.ja-imizuno.or.jp/

今月の表紙

ＪＡいみず野合併10周年記念旅行
カンボジア 世界遺産「アンコールワット」にて

（平成27年２月27日から５日間・バス２号車集合写真）

園芸導入推進大会開催

3月24日（火）、いみず野農協管理センターにおいて「園芸導入推進大会」が行われました。

この研修会は射水市農業技術者協議会が主催で、高岡農林振興センターや全農とやま・射水市農林水産課から園芸導入に必要なポイント等について講習が行われました。

当日は、JAいみず野管内の営農組合・認定農業者をはじめ関係者等約70名が参加されました。

研修内容については、高岡農林振興センター向井和正氏からJAいみず野の「一億円産地づくり」にも指定されている「えだまめ」をはじめ、白ネギ・小松菜等射水市で多く作られている野菜について、一反当たりの所得や栽培に合ったニーズなど詳しく説明がありました。

果樹栽培では、高岡農林振興センター濱谷聡志氏よりモモ・イチジクについて栽培におけるメリット・デメリット、収入・経費の推移などの説明がありました。また、花き栽培では高岡農林振興センター谷口操枝氏よりJAいみず野花き部会で行っている事業、導入のポイント等需要についての説明がありました。

次に「全農とやまがすすめる1億円産地づくりニンジン、馬鈴薯の生産支援」をテーマに、JA全農とやま営農販売部TAC営農対策課 前 康彦氏より生産支援の取組み経過、全農の生産振興における考え方等、生産者における有利な支援・流通の現状と様々な取組みについて説明がありました。

最後に射水市農林水産課 福井有希夫氏より、水田転作に関する各種助成金体系について国庫補助事業・県補助事業・市補助事業の説明がありました。

参加された皆さんは大変熱心に受講されていました。今年度は園芸振興作物の増加が期待されます。

JAいみず野青年部 第11回通常総会

3月13日（金）、JAいみず野営農管理センターにおいて「JAいみず野青年部第11回通常総会」が開催されました。

坪田三夫 青年部長

総会では、第1号議案として平成26年度事業内容並びに収支決算について報告がありました。事業報告では、①射水市内の小学生を対象に「食育」の一環として行なっている「チャレンジ農業体験」においてサツマイモ栽培等を行なったこと、②環境対策として「廃プラスチック・廃農薬回収」に参加協力したこと、③先進地視察研修として石川県内灘町の「こまつな」の産地づくりに取り組んでいる農場へ視察研修に行ったこと等があり、続いて収支決算について報告がありました。

第2号議案では平成27年度事業計画（案）並びに収支計画（案）について、審議されました。事業計画（案）では、「チャレンジ農業体験」においてトウモロコシ栽培・ブラックベリーの収穫を行なうことや「廃プラスチック・廃農薬回収」に参加協力すること等が提案され、収支計画（案）についても承認されました。

終わりに、今回承認された事業計画に基づき積極的な活動を展開していくことを確認し、閉会しました。

新人紹介

よろしくお願い致します！

小杉支店　関　匡志

地域の方の力になれるように、笑顔で頑張ります。よろしくお願いします。

太閤山支店　前田　康孝

初めての社会人としての仕事となり地域の方々にも早く顔を覚えていただき、皆様のお役に立てるようにがんばりたいと思います。

大門支店　鈴木　健士

初めは、わからないことが多くあると思いますが日々努力して、組合員の皆様のお役にたてる様、精一杯頑張ります。

大門支店　竹垣　星哉

農協職員としての責任と自覚を持ち一生懸命頑張ります。どうぞよろしくお願いします。

新湊支店　釣　都久美

早く仕事を覚えて組合員の皆様に愛されるような職員になれるように努めて参りたいと思います。よろしくお願い致します。

片口支店　杉高　有紀

一日でも早く仕事を覚え、組合員の皆様、職員の皆様に愛され、頼られる職員になれるように頑張ります。よろしくお願い致します。

JAいみず野合併10周年記念旅行
カンボジア世界遺産アンコール遺跡めぐり

JAいみず野合併10周年記念旅行カンボジア世界遺産アンコール遺跡めぐりが、2月27日（金）から5日間の日程で行われました。

この旅行に参加された門田忠行さん（三島野支店管内）が、旅行の思い出に漢詩を詠まれましたのでご紹介いたします。

バス１号車集合写真

旅偶感

王都遺跡廻伽藍
朝夕満天環濠染
交流親善周年計
欲依進取護農魂

平成二十七年二月二十七日から五日間

旅偶感。

王都遺跡伽藍を廻る。
朝夕満天環濠染まる。
交流親善周年の計らい。
進取に依って農魂を
護らんと欲す。

《大意》

世界遺産アンコール遺跡、寺院を廻る旅をする。朝夕の空いっぱいに照らし出された寺院群、尖塔などお濠も色鮮やかに染まって綺麗である。

意義ある交流活動と親善の場があり、十周年を祝い、企画されたNツアーに感謝する。農業改革元年の今、率先垂範される施策と心に依って農業精神を譲り続けていって欲しい。

門田　忠行さん
（三島野支店管内）

第13回
「かたろう富山の農業・ゆめ・みらい」作文コンクール

富山県教育振興会主催の「第13回かたろう富山の農業・ゆめ・みらい」作文コンクールの表彰式が富山県農協会館で行われました。この作文コンクールは、富山県の農業振興を図るため、富山県内の若者が考える農業へのゆめや農業振興のアイディアなどを県内の中学生・高校生から募集しました。このうち、ＪＡいみず野管内からは射水市大門中学校２年（２月当時）杉岡勇希さんと射水市大門中学校２年（２月当時）秋元玲奈さんが入選されましたのでご紹介いたします。

富山県農業会議会長賞

「おいしいお米をありがとう」

射水市立大門中学校　2年
杉岡（すぎおか）　勇希（ゆうき）さん

「勇希、じいちゃんの作った米、食べるが来年でお終りだわ。でも畑はするから、野菜できたら、また取りに来られ。」祖父の家へ田植えの手伝いに行ったときに聞いた言葉でした。え、どうして？何があったのだろうと思いました。

毎年僕は祖父の家に田植えと稲刈りの手伝いをしに行くのが楽しみでした。手伝いといっても、僕がまだ小さい頃は田んぼの周りで遊んでいるか、田植機に乗せてもらって田植えの様子を見ているくらいでした。小学校に入ってからは、苗の空箱を洗い、10個ずつ重ねてしばった箱を運んだり、田植機の苗の補充をしたりなど、僕なりに少しでも役に立とうと考えてできることをやりました。

祖父に田んぼをやめる理由を聞いてみました。すると祖父は「元気そうに見えても、年には勝てない。田んぼは大変だ。」と言いました。田植えをする前にトラクターで田を掘り返します。その後、代かきといって田んぼに水を満たし、ロータリーを装着したトラクターで土の塊を砕いて、田面を平らにする作業を3回行うそうです。ここまでしてやっと田植えができる田んぼになります。僕はいつも綺麗に整っている田んぼの姿しか見たことがなかったので、田植え前にこんなに時間と手間がかかっているとは思ってもみませんでした。

田植機で苗を植えた後、残った苗を今度は手で植えます。僕たちが帰った後、祖父と祖母の二人で田んぼに入って植えているのです。手伝いに行った翌日は全身筋肉痛で、身体が重く、なかなか疲れがとれません。でも、祖父と祖母は翌日も田んぼ仕事をしています。農業は本当に体力・気力・根気の要る仕事です。

田植えが終わっても、秋の稲刈りまでまだまだたくさんすることがあります。田んぼの中に生えてくる草取りです。除草剤をまいても苗と苗の間に草が生えてくるそうです。その他にも肥やしをまいたり、消毒をしたり、水の管理をしなくてはなりません。

祖父は毎日、朝と夕方の2回、田んぼの様子を見に行きます。朝、田んぼに冷たい水を入れながら反対側の水路から生温かい水を抜くのです。そうやってヘドロが発生しないように気をつけているのです。田植え後、しばらくの間は水の管理が一番大変だといいます。

祖父は毎日苗が生長していく姿を見るのがとても楽しみだそうです。「体力が続く限り米作りをしていきたい」と話す祖父の姿を見ていると、僕は何だか胸が熱くなりました。今年で最後の米作り。祖父の生き甲斐が一つ失ってしまうようで寂しい気持ちになりました。

新聞で気になる記事を見つけました。日本の食料自給率が4年連続で39％という記事です。食料自給率とは、国内で消費する食料のうち国産の占める割合を示す指標です。日本は先進国の中では最低水準です。どうしてこんなに低いのでしょうか？それは日本人の主食である米の消費量が減少していることが原因の一つです。食の洋風化によって消費量が減り、逆に輸入の割合が高い小麦や肉類の消費が増えています。

僕は毎日の朝食と夕食で祖父の作った米を食べています。祖父が愛情を込めて一生懸命作った米は、とても美味しいです。だから稲刈りが終わると、今年も祖父の作った新米が食べられるかと思うと嬉しくなります。祖父にはできることならもう少し米作りをしてほしいと思いますが、田植えから稲刈りまでの大変な作業を聞くと、祖父の身体が心配になり、無理はしないでほしいという気持ちになります。

米作りは来年が最後になりますが、畑の方は祖母と二人で身体が動く間は続けていくということです。だから、まだしばらくは新鮮で美味しい野菜が食べられます。春には甘酸っぱいイチゴ、夏にはナス・キュウリ・トマト・トウモロコシ・小玉スイカなど、いろいろな野菜が収穫できます。祖父と祖母はいつも美味しい野菜を食べさせてくれるので、感謝の気持ちでいっぱいです。最後の田植えと稲刈りには必ず手伝いに行きます。そして一生懸命できる限りの手伝いをしたいです。

高齢化が進む中、農業の後継者が育たない現状を私たちはしっかりと受け止めなければいけません。生産者が減り続けてこのまま日本が輸入に頼り続けていると、食料危機に陥る可能性もあります。僕たち若い世代がこれから考えていかなくてはならない重大な問題だと思います。

富山県農業機械化協会会長賞

「夢のある富山県農業へ」

射水市立大門中学校　2年
秋元（あきもと）　玲奈（れな）さん

「ある日スーパーで母と会話したことを思い出す。

「なんで国産にせんが？　国産の方が安心で新鮮やん。」

「分かっとるけど高いやん。」

確かに外国産と比べると国産は値段が高い。それは県産でも言えることだ。物を買う時に値段を気にするのは当たり前だと思うし、それは消費者なら誰でも共通して言えることではないだろうか。そうは言っても、地産地消はとても大事なことだと思う。食料自給率を上げ、フードマイレージ（食べ物の走行距離）が低くなるからである。

よく行くスーパーに富山県産のものがどのくらいあるかを探しに行ってみた。すると、「地産地消」と書かれた小さなコーナーがあった。そこには富山県産のトマト・ゴボウ・オクラ・小松菜が並んでいた。とても美味しそうで新鮮なのに、私には野菜たちがどこか寂しそうに見えた。種類や数の少なさに「え？これだけ？」と思わず口にしてしまった。

私はそのコーナーでトマトを買い、その日のうちに食べた。水でさっと洗って丸かじり。カリッとした歯ごたえのある食感で、甘く程よく酸味があった。六つあったトマトを一人で食べきってしまうほど、みずみずしくてとても美味しかった。

スーパーの中心に並んでいる野菜や果物の食材は、他の県や外国産のものばかり。どうしたらもっと富山県産の野菜や果物が増えるのだろうか。富山の農業に足りないものは何なのかを考えてみた。

まず、富山県産の名物が少ないのではないかと考えた。富山＝トマトというふうに他県の人にイメージがわくような農産物を増やすことで、少しは改善されるのではないだろうか。そのためには「伝える」「広める」ための手段が必要不可欠である。富山＝トマトというイメージを持たせ、たくさんの人に食べてもらえるようにするには、伝え、広めるための方法を工夫しなければならない。富山の野菜の特徴や美味しさをいろいろな形で伝える努力が必要だと思う。

私が通っている学校では、市内で収穫された食材を使った給食が出る。小松菜やブロッコリー、枝豆などの食材だ。そして、給食の放送や献立表で「今日の給食の副菜には射水市でとれた小松菜を使用しています」と生徒たちに伝えている。すると、「へえ、これ射水市でとれたんだ！」と、なぜか嬉しい気持ちになる。時々テレビで富山の魚や白ネギが取り上げられていると、「あっ！　富山出る！」と嬉しくなる。きっと農家の方も嬉しいに違いない。

県産の食材は、私たちと同じ富山県民が富山で育てたものだから、すごく安心できるし、親しみをもって食べることができる。なぜか温かい気持ちになれるのだ。私はみんなにこんな気持ちになってほしいと強く思っている。富山の水は都市部に比べるととても綺麗だ。それをうまく生かせば、きっとどの県よりも美味しく、新鮮な野菜ができるはずである。

高岡農業改良普及センターの草野浩一さんは、日本一環境にやさしい富山の農業について次のように述べている。

「食品の安全性や環境問題を考えると、富山の農業は他県に対して優位な面が多く、環境にやさしい農業に関する取り組みの強化が富山の農産物のイメージアップや農業振興上、大きな武器になるように、消費者の私たちももっと考えて富山の農産物を食べればよいと思う。

富山の農業をよりよいものにするのは誰だろうか。農家の方々だけだろうか。私は違うと思う。農家の方々に加えて、富山の農業をよりよいものにしようと働きかけている人たち、そして私たち消費者であると私は考えている。

私が大人になった時、近所のスーパーにはどんな富山産の食材があるだろうか。きっと今より富山県産のコーナーが増え、皆笑顔で野菜を買っている。あの美味しいトマトは、もっと美味しくなっているかもしれない。私はできるだけ富山県産のものを買い、地元への親しみをもって笑顔で食事ができればいいなと思う。そして、周りの人や家族に富山県産の魅力を伝え、広めたいと思う。あのトマトを食べたときの感動を忘れずに。

富山の農業は私たち富山県民みんなで作り上げるものだ。それが私の考える夢のある富山県農業だ。

女性部だより

●女性部総会

3月21日(土)営農管理センターにて、第12回いみず野農協女性部通常総会が開催されました。来賓より水元代表理事組合長、塚本常務理事、中橋営農部長より挨拶をいただきました。議事では、平成26年度事業報告並びに収支決算承認について、平成27年事業計画並びに収支予算についての議案が承認されました。総会終了後、射水市民病院院長の麻野井　英次氏に「深呼吸のすすめ」の演題で講演をしていただき閉会となりました。

◆役員紹介

部　長　河岸芳美（本部）
副部長　犀藤秋美（水戸田支部）
　　澤橋悦子（二口支部）
　　夏野勝美（南郷支部）
会　計　向野和子（黒河支部）
書　記
広報委員長　前川美智子（片口支部）
委　員　竹内千佳子（小杉・大江支部）
　　黒田節子（小杉・小杉支部）
　　柳橋玲子（小杉・戸破支部）

●かあちゃん市総会

3月4日(水)JAいみず野営農管理センターにて、かあちゃん市の総会が開催されました。

清水フミ委員長の挨拶に始まり、来賓の中橋雅彦営農部長、河岸芳美女性部長の祝辞をいただきました。

26年度の活動報告や、収支決算報告に始まり、27年度の活動予定等の決議、新役員の紹介があり、無事総会を終了いたしました。

その後、磯はなびにて、懇親会が開かれ楽しい時間を過ごしました。

本年度のかあちゃん市の開催予定は、4月1日(水)より12月末まで、毎週水曜日午後1時30分より、いっぷくや茶(JAいみず野大門支店前)にて行ないますので、是非お立ち寄りください。オープン当日は、粗品進呈いたします。

●助け合い組織総会

3月12日(木)助け合い組織の総会が、JAいみず野営農管理センターで開催されました。石川芳子会長の挨拶に始まり、営農部の竹内哲二次長の祝辞がありました。

これからも、高齢者社会等に対応する為、組合員及びその家族の高齢者福祉や在宅福祉に対応する理解と認識を深め、高齢者等の援助活動を通じて安心して暮らせる地域社会を進めることを確認し、閉会となりました。

今後の予定

4月16日(木)　県女性協通常総会
5月19日(火)　リーダー・事務局合同研修会

富山県農村漁村男女共同参画チャレンジフォーラムへ参加して

北陸新幹線を明後日に控えた3月12日　富山国際会議場へ関係機関から約200名が参加、主催者の挨拶・来賓の祝辞後、早速「基調講演」に入り聴講しました。

演題は、『**おもてなしの主役はあなたです～ありがとうからまた訪れたいへ～**』で講師は、コスモ生涯学習アカデミー　代表　尾山　敦子氏。元アナウンサーでスタイルの良さと満面の笑顔で、登壇、明るく澄んだ声で終始にこやかに話されました。

○初対面は、笑顔とワントーン高い声で「こんにちは」「いらっしゃいませ」など
○おもてなしとサービスの違いと心得
おもてなしは、無償の愛であり・笑顔と心をこめて
サービスには有償・無償があり、いずれも相手の立場を重んじて対応する。
○おもてなし五原則として・挨拶・身だしなみ・表情・言葉づかい・態度など

北陸新幹線開業で観光客も多くなる今後は、県民皆さんの「おもてなし」術で満足と感動を実感していただき、自然がすばらしい・食べ物が美味しい富山は再訪していただけるよう印象づけましょう。最後に“一人の百歩より　百人の一歩を”と講演されました。

事例発表は、**「山の恵みを生活に」**砺波地区林業研究グループ協議会理事　米沢　尚美氏の森林業に携わる傍ら山の恵みが豊富な地域の特性を活かして、女性の視点・観点から広く地域と積極的に交流を図り「森のレストラン」を経営、提供している料理の「レシピ集」を作成し活動の活性に努めているとの事例と、**「小さなチャンスを大きく活かして夢の実現を」**梨の花工房・いわき　代表の岩城　礼子氏の長年「呉羽梨」の栽培に取り組み、加工品を作ろうとご夫婦で工房を設立、梨ジャム・梨入り焼き肉のたれの製品の直売所「樹の子」で販売、今後は、「梨キャンデイ」の商品化の検討しているとの事例の発表がありました。以上　細やかな気配りのおもてなし・地域に密着した活動・新商品へのこだわり等、積極的な取り組み姿勢に女性のパワーの凄さを感じました。（黒河支部）